



「飼い葉桶に寝かせてある乳飲み子を探し当てた」

(ルカ2・16)

主任司祭 プリオ・スサント

皆さん、主の御降誕おめでとう
ございます。

十二月に入るとなんとなくさわ
さわ、ワクワクして、季節は寒く
なってきたけれど、心温ま

るものがやってくる思いがしてな
りません。そう、私たちにとって
クリスマスはただの季節のお祭り
ではなく、降誕祭だからです。

——「今日、あなたがたのため
に救い主がお生まれになった。」
ルカによる福音のイエスの誕生
物語だけが、羊飼いたちのことを
語っています。野宿して羊の番を
していた羊飼いたちに突然天のみ
使いが現れ、救い主の誕生を彼ら
に告げました。「今日、ダビデの
町で、あなたがたのために救い主
がお生まれになった。」(ルカ2・
11) 救い主の誕生は、なぜ、当時
の王様たちや学者たちあるいは宗
教者たちではなく、社会的にも
宗教的にも立場もなく、貧しくい
つも人間社会の外で生きなければ
ならない羊飼いたちに告げられた
ことをルカ福音者は書き記したの
でしょうか。

まさに、主イエスは、この世に
お生まれになった時から、いや、
お生まれになる前からすでに、預
言職を果たされていたことをルカ
福音者は宣言するのです。神様は、
幼子イエスを通して、最初からす
でに貧しい人、苦しむ人、何もか
も社会的に、また宗教的に立場の
ない人、当時の羊飼いのような人
のところに来られ、共に住まわれ
ます。

「今日、ダビデの町で、あなた
がたのために救い主がお生まれに
なった」と天のみ使いが告げまし
たが、ダビデと言えば、イスラエ
ルの偉大な王様でした。ダビデの
町でお生まれになった救い主は、
ダビデの王的地位に立ち、王とし
てお生まれになったと天使たちは
告げるつもりには違いありません。
ですが、天使たちが羊飼いたちに
告げたしるしも、王様のしるしと
しては、不自然でした。暖かくて
輝かしい宮殿の中で生まれた王子
様ではなく、家畜の小屋の中で生
まれた普通の貧しい家族の赤ちゃ
んでした。これは普通でしょうか。
人間の品格を否定されるかのよう
に、普通の状態とは言えません。

また、この幼子が王であり救い
主だと、天使たちは告げましたが、
その告げたしるしは、あまりにも
かけ離れるものでした。「あなた
がたは、布に包まって飼い葉桶の
中に寝ている乳飲み子を見つけた
であろう」と。こんな救い主、王
様はありえるのでしょうか。普通
に考えますと、確かにありえない
ものです。